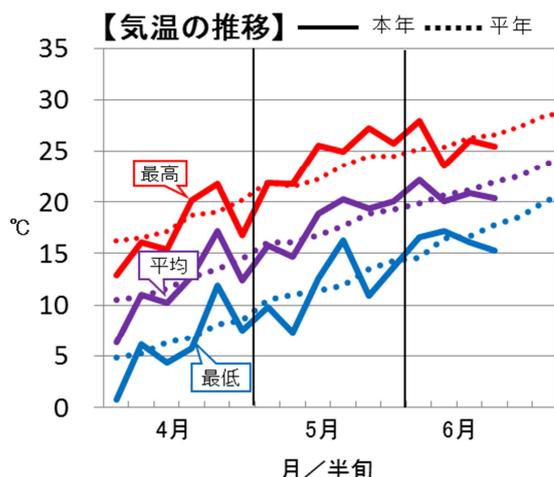


コシヒカリの1回目穂肥は 幼穂 1cm 確認後に施用しましょう

1. 生育状況

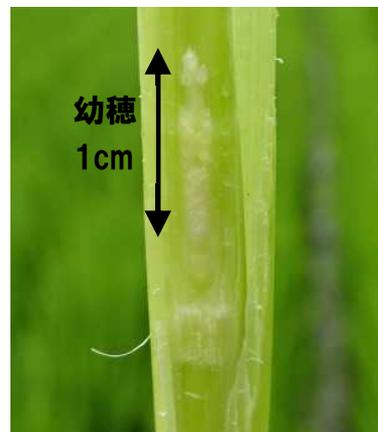
田植後、4月下旬から5月上旬は、気温の影響で、生育はやや遅れていましたが、5月中旬以降、高く推移したため、莖数、生育時期ともに平年並となっています。



2. コシヒカリの穂肥時期と量のめやす

1回目の穂肥は、幼穂 1cm を確認してから施用 しましょう。

葉色が濃い場合(葉色板3.8以上)や過繁茂の場合は、1回目の穂肥を遅らせ、施用量も減らしましょう。



【「コシヒカリ」の穂肥施用日の目安(速効性肥料の場合)】

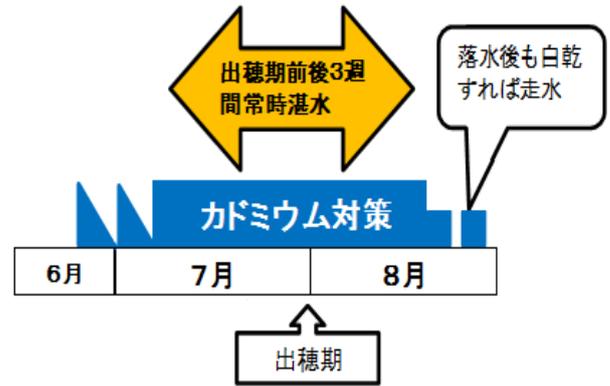
| 田植時期 | 地帯 | 1回目 | 2回目※ | 出穂期見込み |
|--------|------|-------|-------|--------|
| 5月3日植 | 湖辺平坦 | 7月12日 | 7月26日 | 7月30日 |
| | 中山間 | 7月15日 | 7月22日 | 8月2日 |
| 5月10日植 | 湖辺平坦 | 7月15日 | 7月29日 | 8月2日 |
| | 中山間 | 7月18日 | 7月25日 | 8月5日 |

注1 基準の施肥窒素量はそれぞれ2kg/10aです。

注2 穂肥1回目は出穂18日前、
 穂肥2回目は中山間で出穂前11日前、湖辺平坦で出穂前4日と設定。

3. 湛水管理を確実に

これから湛水管理が始まります。米の品質向上とカドミウムを吸収させない重要な管理なので、尻水戸を閉じ、かけ流しをせずに、湛水管理を確実に行いましょう。

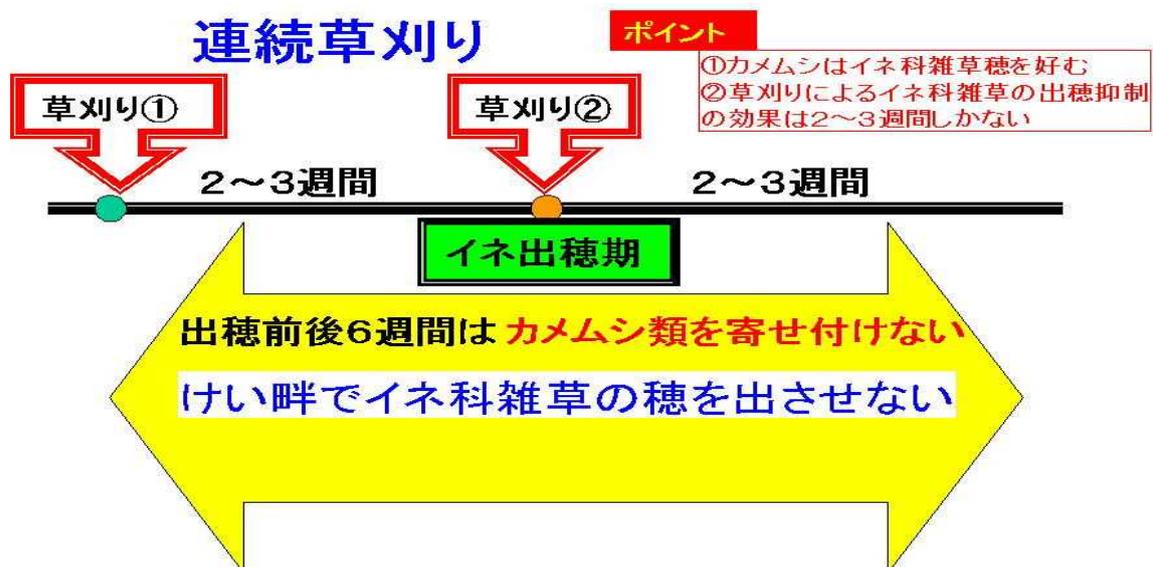


※5月上中旬植でのイメージ（コシヒカリ）

4. カメムシ対策！畦畔を2回連続草刈

斑点米の原因となるカメムシ類は、ヒエ等のイネ科雑草の穂を好み、畦畔に集まります。

そこで、イネの出穂3週間前（7月10日頃）と出穂期（7月30日頃）の2回草刈りを行い、カメムシ類を寄せ付けないようにしましょう。



5. 熱中症対策を

農作業は、日中の気温の高い時間帯を避け行いましょう。

農作業中は、こまめな塩分・水分補給や休憩を行い、健康管理には十分注意するよう心がけましょう。